## 教育分野を通じた復興支援
### お茶大、気仙沼市と相互協力協定

お茶の水女子大学では、宮城県気仙沼市教育委員会との間で、相互協力に関する協定を締結し、教育分野での連携を通じて、東日本大震災で多大な被害を受けた気仙沼市の復興を支援することとなった。

調印式は、去る11月16日にお茶大で挙行。お茶大の羽入学長と気仙沼市教委の白幡教育長がそれぞれ協定書に署名した。

協定書を掲げる羽入学長㊧と白幡教育長㊨

署名に先立ち挨拶した羽入学長は、「将来を担う子供たちに対して何ができるか、協定締結を機にあらためて考えていきたい」と述べるとともに、気仙沼市は市内の多くの小中学校がユネスコスクールに加盟するなど、国際的な教育を展開していることを踏まえ、「お茶大としても学ぶことが多い」と、今回の協定が双方にとって意義深いものであるとの認識を示した。

さらに、同市への支援を中心となって進めてきたお茶大の耳塚理事・副学長は、これまでの両者の連携について説明するとともに、今回の協定締結に関しては「ようやく〝出発点〟に立った。大学でなければできないことを継続して行う」と、さらなる支援に向けた意気込みを語った。

調印式後には、講演会と研究会が開催され、白幡気仙沼市教育長が「津波災害からの復興とお茶の水女子大学への期待～過去の津波被災とそれに続いた取組の経験から～」、同教委の及川幸彦副参事兼指導主事が「東日本大震災からの教育復興の歩みと未来に向けた教育の展望」と題して、被災時の学校の対応や学校現場の支援ニーズなどを語った。

お茶大が被災地の教委と協定を結ぶのは、岩手県教委に続いて今回が2例目。

## お茶大「若手ＩＴＰ中間評価会議」を開催
### 担当教員がドイツの派遣先大学訪問、現地教員と懇談

お茶の水女子大学では、日本学術振興会採択の若手インターナショナル・トレーニング・プログラム（ＩＴＰ）委託事業「校風をつなぐ女性科学者の育成―第2のマリー・キュリーをめざせ―」が最終年度となった。

同事業により実施している研修留学は、理学専攻の主として博士前期課程の学生が、英語による専門科目を1セメスター受講するもの。平成20年のプログラム採択以降、累計59名を派遣している。

11月6日から8日には、同事業担当教職員4名が学生の研修留学先であるバーギシェ・ブッパタール大学（ドイツ）を訪問。研修開始1ヵ月後の学生14名の就学・生活状況を面談調査し、プログラムの評価および改善のため、現地教職員との会合を開いた。

また、プログラムを記念した樹木の贈呈式や両校共同で開催したレセプションでは、研修中の学生及び両大学教職員など関係者が相互の親睦を深めた。

研修後の学生のなかには、留学先のファンドを獲得し、研究留学へとステップ・アップしている者もいる。お茶大では、委託事業終了後も大学として研修留学制度を継続し、より多くの国際的に活躍する女性科学者の輩出を目指す方針だ。

ブッパタール大中庭で行われた記念樹贈呈式